

平成27年（2015年）度 県立歴史館の活動計画（目標）

基本目標	基本目標に対する取組	平成27年度		平成26年度 主な事業及び達成値	備考	
		主な事業	目標値			
長野県民の歴史遺産を子孫に継承するための取組をします	埋蔵文化財、文献史料・歴史資料等を収集・整理・保存し、調査研究を行います	○ 館蔵資料の調査 a 考古資料（縄文土器・木製品）の調査	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度秋季展「樹木と人の交渉史」の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 館蔵資料の調査 a 考古資料（縄文土器・木製品）の調査 <ul style="list-style-type: none"> 「縄文土器展」11月29日～2月1日開催 <ul style="list-style-type: none"> 期間 46日間 観覧者数 2,131人 「H27木の展覧会」展示資料の選定 <ul style="list-style-type: none"> （開催予定 10月3日～11月29日） b 明治初期の町村絵図調査 <ul style="list-style-type: none"> 長野県測量設計業協会との研究会（3回）開催 H27冬季展展示に向け資料選定作業中 <ul style="list-style-type: none"> （開催予定 12月19日～2月28日） c 長野県速報展・遺跡発掘2015、2016の資料調査 <ul style="list-style-type: none"> 「2015」5月30日～7月12日開催 「2016」資料調査、資料選定中 		
		○ 文献史料の収集・整理・保存	<ul style="list-style-type: none"> 整理事業の完了 	<ul style="list-style-type: none"> 文献史料の収集・整理・保存 収集資料の整理（行政文書216、行政資料269、六川家文書） 		
		○ 考古資料の保存処理	<ul style="list-style-type: none"> 収納木製品の保存処理（1,000点） 	<ul style="list-style-type: none"> 考古資料の保存処理 木製品901点の保存処理完了 		
		○ 『信濃史料』デジタル化、データベース公開	☆ 事業完了	<ul style="list-style-type: none"> 『信濃史料』デジタル化、データベース公開 <ul style="list-style-type: none"> 3月 データベースの作成完了 4月 Webで公開 		
		○ 館設定研究テーマの調査・研究	☆ 「今後のあり方」課題1 ①、② <ul style="list-style-type: none"> 長野県測量設計業協会との地図・絵図の研究会で共同研究を進め、成果を平成27年度冬季展で活用する。 市町村教育委員会との城下町研究会で現地視察を含めた研修会を実施し、平成28年度冬季展で活用する。 秋季企画展でまちづくり団体等との連携によるイベントを開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> 館設定研究テーマの調査・研究 調査結果を「紀要」へ掲載 企画展にあわせて県外の木製品の調査を実施 		
	史資料の保護・活用に取り組み、保護思想を啓発します	○ 史資料の保存等に関する市町村への協力・支援	<ul style="list-style-type: none"> 依頼事項の90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 史資料の保存等に関する市町村への協力・支援 市町村からの協力依頼のすべてに対応 		
		○ 史資料保存活用講習会の開催	<ul style="list-style-type: none"> 参加者60人（20人×3日） 	<ul style="list-style-type: none"> 史資料保存活用講習会の開催 11月20日開催 参加者58人 地域歴史資料保存の現状と課題（講師 国文学資料館准教授 西村慎太郎氏） 		
		○ 考古資料保存処理講習会の開催	<ul style="list-style-type: none"> 参加者40人（20人×2日） 	<ul style="list-style-type: none"> 考古資料保存処理講習会の開催 11月14日、12月15日開催 参加者29人 鉄製品の保存処理と保管（講師 当館学芸部考古資料課職員） 		
	未来を映す歴史知識の泉としての役割を果たします	長野県の歴史を明らかにし、その成果を普及します	○ 常設展	<ul style="list-style-type: none"> 観覧者の増加 (H23年度比5%増 45,500人) 【H23観覧者 43,383人】 満足度 8割 	<ul style="list-style-type: none"> 常設展 観覧者 38,295人（△5,088人） (H23年度比 88.3%) アンケート結果 満足 84.5% 	
			○ 企画展	<ul style="list-style-type: none"> 観覧者の増加 (H23年度比5%増 35,500人) 【H23観覧者 33,676人】 満足度 8割 	<ul style="list-style-type: none"> 企画展 観覧者 34,614人（+938人） (H23年度比 102.8%) アンケート結果 満足 87.7% 	
○ 個別研究			<ul style="list-style-type: none"> 学芸部職員 1人1研究 	<ul style="list-style-type: none"> 個別研究 研究発表件数 1,52件/1人 (延件数 26件/職員数17人) 		
○ 共同研究			☆ 「今後のあり方」課題1 ①、② <ul style="list-style-type: none"> 長野県測量設計業協会との地図・絵図の研究会で共同研究を進め、成果を平成27年度冬季展で活用する。 市町村教育委員会との城下町研究会で現地視察を含めた研修会を実施し、平成28年度冬季展で活用する。 秋季企画展でまちづくり団体等との連携によるイベントを開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> 共同研究 教育委員会（9市）との城下町研究会（開催回数 1回） 長野県測量設計業協会との明治初期町村絵図研究会（開催回数 3回） 		

基本目標	基本目標に対する取組	平成27年度		平成26年度 主な事業及び達成値	備考
		主な事業	目標値		
県民の生涯学習を支援します	○ 古文書講座 (25回)	・ 受講者 900人 (36人×25回) ・ 満足度 8割	○ 古文書講座 (25回) ・ 25回開催 受講者 975人 ・ 講座出席率 89.7%		
	○ 考古学講座 (4回)、探訪会 (1回)	・ 受講者 240人 ((講座 50人×4回、探訪会 40人) ・ 満足度 8割	○ 考古学講座 (3回)、探訪会 (1回) ・ 3回開催 参加者 283人 (探訪会32人) ・ アンケート結果 満足 95%		
	○ やさしい信濃の歴史講座 (7回)	・ 受講者 700人 (100人×7回) ・ 満足度 8割	○ やさしい信濃の歴史講座 (6回) ・ 6回開催 参加者 1,089人 ・ アンケート結果 満足 86%		
	○ 企画展・季節展等講演会 5回 (速報、春・夏・秋・冬企画展等)	・ 受講者 500人 (100人×5回) ・ 満足度 8割	○ 講演会5回 (速報、春・夏・秋・冬企画展等) ・ 5回開催 受講者 485人 ・ アンケート結果 満足 80%		
	○ 大人の遠足 (八十二財団との共催)	☆ 「今後のあり方」課題1 ② ・ 秋季企画展でまちづくり団体等との連携によるイベントを開催する。	○ 大人の遠足 (八十二財団との共催) ・ 参加者数 講座 2回 114人、現地見学 24人		
	○ ブックレット刊行	・ 年1冊の刊行	○ ブックレット刊行 ・ 「大地に刻まれた信濃の歴史」刊行		
	○ 関係機関との連携	☆ 「今後のあり方」課題1 ③ ・ 飯田美術博物館 (飯田市)、豊科郷土博物館 (安曇野市) との連携した講座を開催する。 ○ 県博物館協議会HP開設し、連携強化を図る。	○ 関係機関との連携 ・ 連携講座の実施 (飯田市美術博物館 2回) (安曇野市豊科郷土博物館 2回)		
○ 出前巡回講座	☆ 「今後のあり方」課題2 ⑧、⑩ ○ 「やさしい信濃の歴史講座」の上田市、松本市での巡回開催を行う。 ○ 「長野県の遺跡発掘2015」の伊那市、安曇野市での巡回開催に合わせた講演会等の開催する。 ○ 戦後70年企画「長野県民の1945」等に関連した出前講座を実施する。	○ 出前巡回講座 ・ 12月6日 茅野市尖石縄文考古館で開催 受講者 35人			
学校教育を支援します	○ 効果的な展示利用方法の開発	・ 常設展示用学習シート(小学校)を活用したプログラムの開発試行	○ 効果的な展示利用方法の開発 ・ 「新学習シート」の作成		
	○ 学校見学の展示解説	☆ 「今後のあり方」課題3 ⑨ ○ 展示解説・体験ボランティアの募集・要請を行い、学校見学の解説、イベント運営への活用を進める。 ・ 常設展解説等館運営ボランティアの積極的な活用を図る。	○ 学校見学の展示解説 ・ 実施率 91% (254校/280校) (未実施 短時間見学、希望校集中)		
	○ 学校見学のバックヤード探検	・ 希望校の90%以上の受入	○ 学校見学のバックヤード探検 ・ 実施率 94% (147校/157校) (未実施 希望校集中)		
	○ 博物館実習・職場体験学習の受入	・ 希望者の90%以上の受入	○ 職場体験学習の受入 ・ 実施率 55% (6校/11校) (未実施 希望日休館、希望校集中)		
	○ 教員研修への協力、実施	・ 希望者の100%の受入	○ 教員研修への協力、実施 ・ 実施率 100% (3団体受入)		
	○ 出前授業(講座)の実施	☆ 「今後のあり方」課題2 ⑧、⑩ ○ 「やさしい信濃の歴史講座」の上田市、松本市での巡回開催を行う。 ○ 「長野県の遺跡発掘2015」の伊那市、安曇野市での巡回開催に合わせた講演会等の開催する。 ○ 戦後70年企画「長野県民の1945」等に関連した出前講座を実施する。	○ 出前授業(講座)の実施 ・ 43講座 受講者 2,107人 (すべての要望に対応)		
	○ 未利用校の利用促進	☆ 「今後のあり方」課題4 ⑬ ・ 中农信地区の校長会、教頭研修会での歴史館についての情報提供を行い、利用促進を図る。	○ 未利用校の利用促進 ・ 中农信校長会、教頭研修会で要請		

基本目標	基本目標に対する取組	平成27年度		平成26年度 主な事業及び達成値	備考
		主な事業	目標値		
	歴史情報を提供します	○ 史資料の閲覧	☆ 「今後のあり方」課題1 ④ ・ 地図、絵図の調査を実施し、その成果を公開する。	○ 史資料の閲覧 ・ 閲覧件数 750件 (H23年度比 109.8%)	
		○ ホームページの充実	・ アクセス数 (年間 65,000件) ・ ホームページの内容の充実	・ アクセス件数 65,131件 (H23年度比 160.3%) ・ ブログの月2回以上更新 ・ イベントガイドの毎月更新 ・ 出版物一覧の掲載	
		○ 歴史館情報のマスコミへの周知	☆ 「今後のあり方」課題1 ⑥ ・ 信濃毎日新聞社「しなの歴史再現」、読売新聞社「名作招待席」へコラムを掲載する。 ・ 企画展、講座等の情報発信を行う。	○ 歴史館情報のマスコミへの周知 ・ 記事数88件 (H23年度比 141.93%) 信濃毎日新聞「しなの歴史再現」の執筆24回	
楽しむ場・憩いの場・交流の場としての役割を果たします	参加して楽しめる場、憩える場とします	○ 体験イベントの開催 (勾玉づくり、縄文人になって遊ぼうetc)	☆ 「今後のあり方」課題3 ⑩ ・ 出前イベント「縄文人になろう」を実施する。 ・ 戦後70年企画「長野県民の1945」等に関連した出前講座を実施する。	○ 体験イベントの開催 ・ 開催日数6日(参加者1,796人) (H23年度比 336%)	
		○ 親子映画会の開催	・ 参加者の増加 (年間 1,000人)	○ 親子映画会の開催 ・ 開催日数4日(参加者1,495人) (H23年度比 193%)	
	県民が参画した館の運営を進めます	○ 古文書愛好会の育成と活動支援	・ 古文書講座受講者の半数の入会 ・ 参加者数 500人(延べ)	○ 古文書愛好会の育成と活動支援 ・ 入会者数 73人 ・ 参加者数 延べ612人(158人)	
		○ 運営サポートボランティアの育成	☆ 「今後のあり方」課題3 ⑨ ○ 展示解説・体験ボランティアの募集・要請を行い、学校見学時の解説、イベント運営への活用を進める。 ・ 常設展解説等館運営ボランティアの積極的な活用を図る。	○ 運営サポートボランティアの育成 ・ ボランティア数46人(H23 21人) 養成講座6回 参加者数23人	
		○ 利用者アンケートの充実	☆ 「今後のあり方」課題3 ⑨ ・ 来館者アンケート回収率を高め、評価の充実を図る。	○ 利用者アンケートの充実 ・ 来館者 1,024人(H25 776人) ・ 学校回収率 89.2%(H25 84%) ・ 満足度を4段階とし数値化	